

フラウ10月28日号 第13巻第29号(毎月2回第2・第4号曜日出行) 平成4年1月16日第13巻第29号発行

F la U

フラウ
10/28
特 別 定 価
620yen

OCTOBER 2003 No.300

1冊で2冊のボリューム!

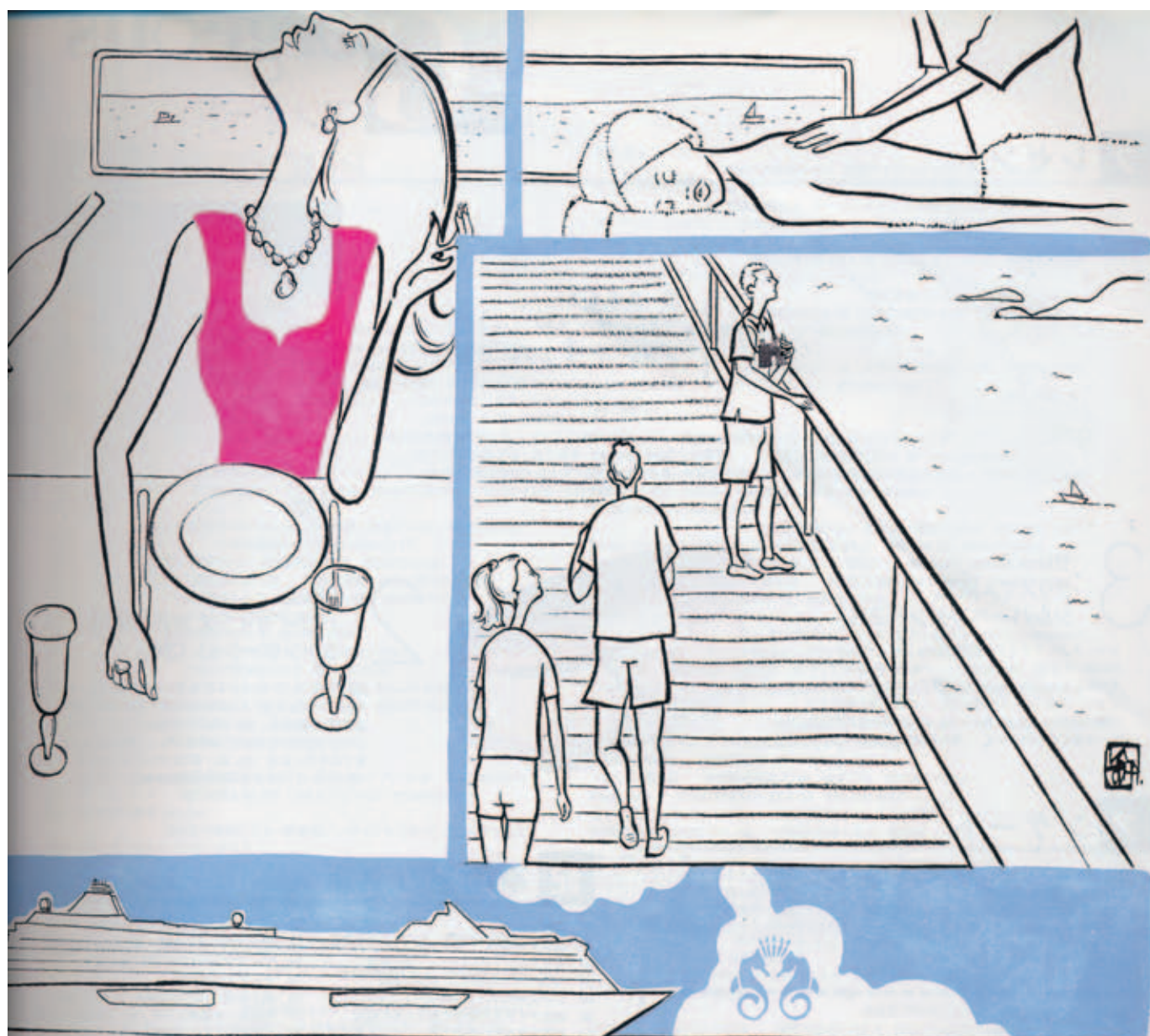
創刊
300号記念
特大号



特別合本
フラウ・
ゴージャス
2003年秋号
淑女であり
ながら、
悪女かも
しれない

泣きたくなるような恋がしたい

純愛が、 私を変える!



踊る水平線

クリスタル・セレニティ号—— 史上最高・贅沢な海の冒険

真に豊かな時間を海上で堪能する！

世界でナンバー1の船の旅を提供してきた、「クリスタルクルーズ」社がこの夏、新たに3隻目の豪華客船「クリスタル・セレンティ」号を就航した。

この船の最大の魅力は、船内の隅々にまで「ホスピタリティ」が満ちていること。豪華で快適な客室や近代的な施設、グルメを唸らせる料理はもちろんのこと、ゲストに最高の旅を提供しようとする、スタッフひとりひとりの心遣いであふれている。

また「クリスタルクルーズ」の旅を心から愛しているのは、主にアメリカの富裕層たち。贅を尽くした生活を知り尽くしている彼らが繰り返し、この旅を味わいたいと思っていることこそが、ここにすれば本当に豊かな時間を過ごせることの証と言えるだろう。

スピードが優先される今だからこそ、あえてゆっくりと旅をして、本来の人と人との関係を見つめ直し、温かなふれあいを素直に受け止めるゆとりを取り戻す。そんな心に残る旅がここにすれば味わえる。



1st.Day

7/7

波の音ときらめく星が祝福する処女航海

「クリスタル・セレンティ」号の処女航海が始まる。出航目前に屋外デッキでは、その旅立ちを祝う「セイルアウェイ・カウントダウン」のセレモニーがスタート。「あらお久しぶり！ お元気だった？」。賑やかなブラスバンドの演奏の合間に、そんな声が船上のあちこちから聞こえてくる。クリスタルクルーズ利用者の40%はリピーターということもあって、ゲスト同士がすでに顔見知りや友人ということも少なくないらしい。旅慣れているはずの紳士、淑女たちが再会を祝って無邪気にはしゃぐ様子は、何だかとても可愛い。

出港の時間が迫ると、船のプロムナードデッキに乗客が集まり出した。そこでは、特別にアレンジされたプロムナードバーで、乗客がシャンペンを飲みながら旅の仲間と歓談し、船が岸壁から離れる光景を眺めている。これから始まる豪華な旅への高揚感を誘ってくれる。

滞在する部屋はシックなインテリアで、まるで豪華ホテルの一室のよう。大きな窓の外には自分専用のバルコニーが。ディナーの後、そこでデッキチェアに腰掛けて、波の音を聞きながら、しばらく星を眺めていた。



船旅こそ、旅好きが最後に行き着く究極のスタイル！世界最高の豪華客船クリスタル・セレンティ号の処女航海がロンドンから出航。その絢爛豪華、めくるめく海の旅を誌上レポート！

絵 河原シンスケ

企画・構成／矢野龍子 取材・文／坂本みゆき

2nd.Day

7/8

カクテルパーティの華やかなムードに酔いしれ

2日目のメインイベントは船長主催の歓迎カクテルパーティだ。ドレスコードは、もちろんフォーマル。夕刻、時計が6時を告げるとともに、これまでカジュアルな装いでリラックスしていたゲストたちはいっせいにタキシードやイブニングドレスに着替えて、パーティ会場の「バームコート」に向かう。船内はすでに華やかなムードでいっぱいだ。

「セレンティ」号の船長、レイドルフ・マーレン氏はノルウェー人。北欧出身の船員たちは伝統的に人気があるのだとか。クルーズ好きにとって、誰が船長なのかはとても重要な問題。そしてこの夜は、その船長と触れ合える絶好の

チャンスだから、皆とても楽しみにしている。マーレン船長自身そんなゲストの気持ちを十分に得ていて、パーティ会場の入りでひとりひとりの手を取って、迎の挨拶をしてくれる。こんな造いがうれしい。

カクテルパーティの後はメーダイニング「クリスタル・ダイニング」で、キャビアとロブスターのウェルカム・ディナーに舌鼓。500席もあるレストランというだけでも驚きなのに、料理をアラ・ルトメニューから選べるというのも凄い。これをコントロールするシェフをはじめ、スタッフの有ぶりにも、改めて脱帽！



3rd.Day

7/9

最高のエンターテインメントが目白押し!

「セレンティ」での生活は、トップデッキにあるリド・カフェでの朝食から始まる。ビュッフェカウンターに並ぶ何種類ものハムやチーズ、フルーツを選んでいると、すぐにスタッフがやってきて、トレーにのせて席まで運んでくれる。そんな細やかなサービスも、ここならではの。水平線を眺めながらの朝ごはんは最高!

船内では朝から夕方まで数多くのアクティビティが開催されているので、それに参加するのもいい。シーザース・パレスのカジノでのゲームの楽しみ方から、ヨガや語学、コンピュータ教室まで、その内容は実にさまざま。また映画館「ハリウッドシアター」では日替

わりで新旧の名作映画が上映されている。

夜のエンターテインメントも見逃せない。この日は「ギャラクシーラウンジ」で、ロンドンのウェストエンドで「キャッツ」や「エビータ」など人気ミュージカルの主演を務めたボーカリスト、ジャッキー・スコットのコンサートが開かれた。ジャッキー自身もクリスタルクルーズのファンとあって、会場内はなごやかな雰囲気。食後のリキールとともに、彼女の熱唱を存分に楽しむ。本場の雰囲気味わえて大感激。素敵な事が目白押しで、海の上にいることを忘れてしまいそう。



4th.Day

7/10

夜更けとともに高まっていくテンション

早朝、ドイツのヴァルネミュンデに到着。事前に予約したエクスカーションに参加して、ベルリンまで足を伸ばすことに。89年に「ベルリンの壁」が取り除かれ、以降旧東ベルリン側に出来た新たなトレンドなカフェやレストランを眺め、数時間だけの滞在ながら、この地に新しい歴史が作られていることを実感。

ディナーは 世界的なセレブリティ・シェフの「久松信幸」さんが手掛ける「ノブ」スタイルの「シルクロード」の寿司バーで。この日入荷したという新鮮な魚介類は絶品! 客の好みに合わせて

絶妙なタイミングで料理を出す、そのホスピタリティは本当に心憎いほど。海外旅行で日本食が恋しくなることはないけれど、このレストランには毎晩通いたいくらいだ。

食事の後は「アヴェニューサロン」で最後の夜をカクテルとともに楽しむことに。ここで昨晚の主演、ジャッキー・スコットに遭遇! サロン内のピアノ演奏に合わせて、飛び入り参加して美声を披露したゲストを、彼女も楽しそうに眺めていた。夜更けとともに高まっていくテンションのなかで、夢のような時間が過ぎていった。

